



阪神南支部では、地域のベーカリーの協力を得て、店先という日常の場を活用させていただき、「まちの保健室」を開催しました。現在、活動拠点はまだ限られていますが、買い物の途中などに気軽に立ち寄り、立ち話をするような感覚で利用できる地域の「ほっとできる場所」を増やしていくことを目指した取り組みです。

本活動は、病院への受診までは考えていない方にとっても、日常の延長線上で体や心のことを気軽に相談できる場となることを目指しています。通りがかりに足を止めてくださる方もおられ、自然な会話が生まれるなど、身近な場で実施することの意義が感じられました。

今回は、動物介在活動AAA:Animal Assisted Activityの一環として犬の参加も試みました。犬とのふれあいが場の雰囲気を和らげ、参加者同士やスタッフとの間で声をかけ合うきっかけとなり、健康や日常生活に関する相談へとつながる場面が見られました。また、90代の参加者が大学生に自身の経験を語り、学生が熱心に耳を傾ける姿が見られるなど、世代を越えた対話が自然に生まれていました。

このことから、「まちの保健室」が健康相談の場にとどまらず、人と人とがつながる、地域に開かれた交流の場としての可能性もうかがえました。今回の取り組みで得られた手応えを大切にしながら、今後も開催場所や関わりの方を工夫し、地域の実情に応じた形で「まちの保健室」の活動を継続・発展させ、地域に根づく取り組みとして広げていきたいと考えています。



兵庫県立尼崎総合医療センターと 兵庫県立大学看護学部周産期ケア 研究センターが協働開設 るんるんルーム

「るんるんルーム」は、平成27年に兵庫県立尼崎総合医療センターと兵庫県立大学看護学部周産期ケア研究センターが協働して開設した子育てまちの保健室です。学校の保健室のように、心や身体のさまざまな



な気がかりや不安を気軽に相談できる場として運営しており、妊娠中の方や乳幼児を育てるご家庭が集い、ほっと交流できるひろばとなっています。令和5年4月から令和6年6月までは感染症重症化防止の観点から公共施設で開催していましたが、感染対策の変更に伴い、令和6年7月より尼崎総合医療センター講堂で開催しています。月2回開催し、1回は専門職による口腔ケアやスキンケアなどのミニレクチャー、もう1回は参加者同士の交流や看護職への相談を中心とした「親子で楽しくおもちゃで遊ぼう」の会としています。院内開催により、産婦人科医師や小児科医師、管理栄養士、歯科衛生士、小児看護専門看護師など多職種の協力を得て、内容の充実を図っています。令和7年4月から12月までに342名が参加しました。参加者の増加に伴

い、月齢や年齢、発達差による事故防止のため会場内のエリア分けや遊び方の工夫を行い、「親子で楽しくおもちゃで遊ぼう」の会では、試験的に月齢・年齢ごとの参加枠も設けています。現在は予約制で、定員に達する状況が続いており、安全確保のため看護職の十分な配置が必要であることから定員拡大には至っていません。今後は看護職ボランティアの確保が課題です。



武庫川女子大学看護学部 「まちの保健室」・「健康相談ひろば」

武庫川女子大学看護学部は、令和7年に開設10周年を迎えました。地域の皆さまの健康の保持増進のために何かお役に立ちたいと考え、地域貢献活動、教育活動の一環として平成29年度より「まちの保健室」をらぼーと甲子園で、令和元年度より本学主催の「健康相談ひろば」を鳴尾・武庫川女子大前駅高架下の武庫女ステーションキャンパス等で開催し、活動を継続しています。

令和7年度は、出前隊として「まちの保健室」を2回、「健康相談ひろば」として乳幼児の計測と育児相談を2回、健康相談を2回、計6回開催しました。

「まちの保健室」では健康指標の測定や健康相談、西宮市薬剤師会によるお薬相談を行っています。参加者は90名ほどであり、「いつも楽しみにしています」「また参加します」といった声をいただき、リピーターの方にも多くご参加いただいております。また、看護学部の学生ボランティアが特製ポロシャツを着てスタッフとして加わり、にぎやかな開催となっています。

「健康相談ひろば」では、大学院修士課程の保健師養成のコースの学生が、「子どもの熱中症予防のお話」をさせていただきました。

「まちの保健室」「健康相談ひろば」は、多様な世代の方々にもご参加いただき、健康づくりの輪が広がるとともに、学生にとっては地域の声に直接触れ、学びを深める貴重な機会となっています。次年度以降も、引き続き地域の方に気軽に参加いただけるような場となるよう活動してまいりたいと思います。



看護学部の学生ボランティアもスタッフとして活動しています!!